

## 第61回上下水道事業審議会会議録

1. 開催日時：令和3年1月13日（水） 午後2時～午後4時25分
2. 開催場所：京丹後市役所 峰山庁舎205会議室
3. 出席者：西村正明会長、今田弘一副会長、袖長恵子委員、前田和夫委員、  
蒲田幸造委員、今井秀一委員、松田佳子委員  
欠席者：平野佳代子委員、小笠原務委員  
事務局：大木上下水道部長  
経営企画整備課：平井課長、川戸課長補佐、金子課長補佐、吉野整備係長  
小林主任、田宮主任  
施設管理課：坪倉課長、中川課長補佐
4. 議題
  - (1) 市長あいさつ
  - (2) 上下水道事業審議会への諮問
  - (3) 議事等
    - ①水道事業の現状について
    - ②京丹後市水道事業基本計画の見直しについて
5. 公開又は非公開の別 公開
6. 傍聴人の数 1人（内、報道関係1人）
7. 内容（要旨）

### ■開会

事務局より、第61回京丹後市上下水道事業審議会の開会を告げる。

### ■市長挨拶

中山市長開会挨拶

### ■上下水道事業審議会への諮問

中山市長より会長へ諮問

### ■市長退席

中山市長は公務のため退席

### ■会長挨拶

西村会長挨拶

### ■上下水道部長挨拶

大木部長挨拶

### ■事務局紹介

## 大木部長より上下水道部職員の紹介

### ■議事（会長が進行）

<会長>

最初に、委員の出席状況について事務局より報告をお願いします。

<事務局>

条例では、委員定数の半数以上の出席で会議が成立することになっています。

本日の出席者については、審議会委員9人中7人の出席ですので、本日の会議が成立していることを報告します。

### ■会議録署名人の指名

<会長>

続いて、本日の会議録の署名人を指名します。前田委員をお願いします。

### ■事務局の説明

<会長>

それでは議事に入ります。水道事業の現状について、事務局より説明をお願いします。

<事務局>

事務局説明【説明資料①】

### ■質問等

<委員>

各事業の現状の中で、簡易水道のうち「竹野川」というのはどういう意味でしょうか。他は地区の名称となっているようですが。

<事務局>

竹野川簡易水道について、地区では延利になります。簡易水道の場合、旧町毎に名称の付け方がまちまちでした。地区名を用いているところもあれば、竹野川簡易水道のように、取水元の名称を用いているところもあり、全てが地区名を用いているわけではありません。

<委員>

5ページ下の説明の中で、浄水施設のところの「最近」の字が違いますか。

<事務局>

申し訳ありません。「細菌」の間違いです。

<委員>

3点ほどお伺いします。まず、5ページの「施設が非常に多いことが課題」とは、問題が

あるということなのか、検討すべきことがあるということなのか、具体的に教えて下さい。

2つ目に、料金回収率が100%を下回っている主な原因や要因が分かれば教えて下さい。

3つ目に、水道管の種類・材料が色々あり、京丹後市では塩ビ管が一番多いですが、時期が来て更新する際に、ベストな管の種類・材料の選び方がありますか。

#### <事務局>

京丹後市では、合併以降、旧町域を越えた水融通に取り組みつつ、施設の統廃合を進めてきました。しかしながら、いまだに水道施設の数が非常に多い状況で、それぞれの施設で水を作っているため、どうしても人件費や薬品代・電気代などのコストが多くかかっており、そのことが課題となっています。防災上言えば、個々の施設があるということは重要なことですが、コスト削減とのバランスを取りながら、他の公共施設と同様に、水道事業においても、使用できる施設は残しつつ、施設を一つずつまとめていくことを検討していかなければならないと思っています。

次に、料金回収率ですが、これについてもコストとの関係となっています。上水道では、大きな施設で大量の水を作るためコストが抑えられ、料金回収率は91.7%と高くなっています。一方で、簡易水道では、施設数が多くコストがかかるため料金回収率も58.86%と低くなっています。この料金回収率を改善していくためにも、施設の統廃合を進めコストを下げしていく必要があります。

また、水道管の種類・材料についてですが、水道事業は大変歴史が古く、管も古いものが残っています。その1つは石綿管で、衝撃に弱い割れやすく漏水の原因となっており、令和5年をめどにゼロにする目標で布設替に取り組んでいます。次に塩ビ管ですが、これは塩化ビニールの管で、昭和に入り大変安価であったこともあり、現在の京丹後市ではメインの管となっています。各家庭における給水管のほとんどはこの塩ビ管です。耐震化を進めるという観点で言えば、ダクタイル鋳鉄管がベストとなりますが、京丹後市では、塩ビ管に比べ延長は短く導入が進んでいません。鋼管や鋳鉄管も意外と多く残っています。その他としてはポリエチレン管があります。耐震性も大変高く、また値段の観点からも導入を進めています。なお、寒波の関係で放送させていただいていますが、家庭で使用されている塩ビ管は凍結に弱く、水道水が凍った際の膨張に耐えられず漏水を引き起こす場合がありますので、凍結防止を行った上で使用していただきたいと思っております。

#### <委員>

石綿管には、材料としてアスベストが使われていますが、中皮腫など健康上問題は無いでしょうか。

#### <事務局>

厚生労働省の見解によると、水道水に出ていくものではなく、健康上問題は無いということになっています。

#### <委員>

今回の説明の中にはありませんが、水質的な課題があれば聞かせて下さい。特に、市内で

も地域によって味が違うという声を聞きますし、昔に比べ水道水を直接飲むのではなく、子どもなどは水筒を持って行ったり、これは施設の老朽化であったりサビであったりいろんな問題も含んでいると思います。カルキの匂いが強いなどの話を一般の市民の方から聞くので、何かそういった課題や認識があれば説明をお願いします。

#### <事務局>

水質についての課題はありません。毎日の検査や年1回の大規模な検査などを実施しながら、安心・安全なものを提供しています。以前は塩水のような味やカビの匂いがするというようなことがありましたが、現在は機械を整備し、そういったことは解消しています。

ただし、美味しいか美味しくないかについては、地域や個人によって異なる部分があると思います。硬水と軟水、山水と井戸水・川の水などによる違い、主観による違いもあります。いずれにしても、市は厚生労働省が定めた水質基準に基づいた水道水を提供しています。

なお、以前には、安心・安全以外に、美味しい水を提供しなさいという時期がありました。京丹後市においても、いろんな機械を導入し努力をさせていただきましたが、一方でコストの面では大変厳しいものがあります。やはり、市が提供するという観点からすると、美味しいというよりは安心・安全という観点を重視しなければならず、また、現在市民の方が求めているのも、安心・安全な水を安価にという流れになっています。

#### <委員>

有収率や料金回収率について、他の自治体と比べてどのような状況なのか教えて下さい。

#### <事務局>

有収率について、浄水場から出た水が全てメーターを通じて料金に変わるのがベストですが、実際には、消火栓の使用や各家庭までの間での漏水などにより、100%にはなりません。現在の有収率は79.2%であり、2割以上の水がどこかへ行ってしまっておりお金に変わっていません。そのため、この有収率を上げていくのは大事なことで、まずは80%、その次が85%、90%というふうに、目標を立てながら有収率の向上を目指しています。なお、有収率を上げるためには、水道管を直していくしか方法がないため、京丹後市はこの老朽管の布設替えに集中的に取り組んでいます。

#### <委員>

料金回収率が低い一番の理由として、施設数が多いからという説明でしたが、9ページの料金回収率の表を見てみると、府内でも100%を超えている自治体があります。そういうところは、施設自体も少なく、また新しいということでしょうか。

#### <事務局>

料金回収率というのは、水を作る費用に対する料金収入の比で決まります。京丹後市では、令和元年度で79.6%になっており、約20%の費用が回収できていない状況です。府内の市町村では、料金回収率が100%を超えるところもありますが、これは安価に水を作ることができる地域だと考えられます。例えば、きれいな水が流れる井戸を持っていたり、山

の中でほとんど手を加えなくても水が提供できる地域などです。一方で、京丹後市の場合は、施設数が多く、また、川の水を汲んだ中で薬品や機械を使用してきれいな水を作る、川下で作った水を川上に上げるところもありポンプ等の電気代がかかるなど、費用が大きく、そのため料金回収率が低くなっています。

なお、料金を改定して高くすれば料金回収率は上がりますが、京丹後市の料金単価については、府内でも大変高い金額になっており、市民サービスの面からも改定してどんどん高くするというわけにはいきません。そのため、料金回収率を100%近くにしていくには、ある程度の料金設定の中で、施設の統廃合を進め、10年・20年をかけて費用を下げる努力をしていく必要があります。

#### <委員>

2ページの下のところにある飲料水供給施設と簡易給水施設について、小規模な施設ということですが、今現在はどうなっていますか。

また、8ページには両施設についての料金回収率の記載がありませんが、どうでしょうか。

それと、漏水があった場合の料金について、利用者と市とで折半ということですが、根拠はあるのでしょうか。

#### <事務局>

平成31年4月までは、例規の中でそれぞれ設置条例が存在していましたが、それ以降は、簡易水道を含め、全て上水道になっています。そのため、現在は両小規模施設の名称は存在しませんが、他の施設までの距離が離れているため統合は難しく、施設についてはこれまでどおり存在しています。

料金回収率については、簡易水道事業に含まれており、回収率を下げる要因となっています。

漏水があった場合の料金負担のあり方についてですが、例規の中で減免制度が設けられており、その規定により、利用者と市とで折半するという事になっています。

#### <会長>

活発なご意見ありがとうございました。

それでは、続きまして、水道事業基本計画の見直しについて説明をお願いします。

#### <事務局>

事務局説明【説明資料②、③】

#### ■質問等

#### <委員>

大きくは3つだろうと思います。令和3年度で完成予定の中野浄水場の整備、これに伴っての新しい配水池の新設、そして、大宮東地区の統合整備だろうと思います。

その中で、中野浄水場が完成すると、その責任が大きくなるとともに、かなり広範囲の水が必要になってくるように思います。菅浄水場の水を中野浄水場へ引っ張ってくるというこ

とようですが、同じ川から取水していると思いますし、夏場の水不足を含め、年間を通じて水は大丈夫でしょうか。

<事務局>

今現在、中野浄水場は、水利権を持っている竹野川より取水しています。また、近くの菅浄水場は、竹野川に合流する前の鱒留川の水利権を持っており、そこからの水と、場内の井戸からも取水しています。これらの水源についてはそのまま、取水した水を中野浄水場まで持ってきて水を作る、そういう考え方にさせていただいています。そのため、水の確保については問題ないと考えています。

<委員>

ハザードマップを見ると、水源や浄水場は大丈夫なのか心配になりますが、施設が統廃合されて少なくなればなるほど、そのリスク分散をどうするのか。例えば、中野浄水場がダウンした場合のバックアップはできているのか、心配してしまいますがどうでしょうか。

<事務局>

防災上の観点では、小さな浄水場がたくさん存在する方がベストであるという考え方があります。しかしながら、一方でコストの問題があり、その辺のバランス感覚を持ちながら施設統合を進めることが大事だと思っています。

中野浄水場周辺のハザードマップでは、最高で3メートルの浸水の可能性があると予想されています。しかしながら、竹野川との関係からすると、現在の位置でしか中野浄水場は整備できないため、これに対応した浸水対策を検討していかなければならないと思っています。さすがに3メートルの浸水というのは厳しいものがありますが、それに近い対策は実施する予定です。

防災上の観点ではというと、今現在、京丹後市の中では、非常電源が備わっている浄水場はありません。都会では、浄水場やポンプ場に非常電源が備わっているのが当たり前となっていますが、京丹後市においては、自前での設備はなく、非常時の電力供給は電力業者にお願いしている状況です。今回の中野浄水場の整備においては、非常電源の整備も計画しており、まずはメインの浄水場を非常電源により維持しつつ、他の地域への応援給水、市民の方々への給水車での給水などを考えているところです。

<委員>

古い施設は新しく更新していく必要がありますし、耐震化も必要です。コストを削減していくためには統廃合が必要です。そのような説明でした。中野浄水場の更新整備で21億円、また、善王寺や口大野浄水場についても、同じように大変な事業費が必要になってきますが、これに対する手当はどうなっていますか。

また、最初のところで、官民連携や広域連携という説明がありましたが、コスト削減に関し、これらを活用して負担をいくらかでも少なくできるというような検討はしていますか。

<事務局>

建設事業については、借金をしてでもという表現をさせていただきましたが、国庫補助金や合併特例債、また、令和3年度から創設される旧簡易水道施設の改良事業に対する交付税措置など、有利な財源を確保しながら進めていけるよう検討しているところです。

また、民との連携や官と官との連携等も今後の課題だと思っています。民との連携で言えば、まずは民間の業者に委託して管理してもらうのが第一段階だと思っていますが、命を守る水を作る水道施設については、それなりの技術や知識が必要となりますので、安易に管理委託できるものではなく、なかなか進まない状況となっています。

広域連携で言えば、災害時における近隣市町や京都府、全国の市町村との協力連携体制、断水が発生した場合の応援給水体制を構築させていただいています。

福知山市以北の市町での広域連携を検討していますが、隣の与謝野町との水融通も厳しいものがあり、コストを下げる連携というのは、なかなか難しいと思っています。物品の共同購入などの検討を進めていますが、大きくコスト削減できるものにはならないというのが現状です。

さらに、課題の一つとして、職員の技術継承の問題があります。職員は3年から5年の間で異動するため、技術の継続的維持がなかなか厳しい状況となっています。一方で、他市町では、水道局の職員として採用されている方がたくさんおられるので、交流も含め人的な連携も検討しているところです。

<会長>

活発なご意見をいただきましてありがとうございました。

それではこれで本日の会議を終了させていただきたいと思います。

<事務局>

ありがとうございました。また、大変活発なご意見ありがとうございました。

それでは最後になりますが、次回の日程につきまして、決めていきたいと思っています。

(次回は、1月21日(木)の午後2時から、会場は峰山庁舎205会議室に決定)

<会長>

それでは、次回は1月21日(木)午後2時から、会場は同じ205会議室で開催します。よろしく申し上げます。

■閉会挨拶

今田副会長

<事務局>

以上で、本日の上下水道事業審議会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後4時25分終了